



Gakuvo

日本財団学生ボランティアセンター 報告書

REPORT 2018

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

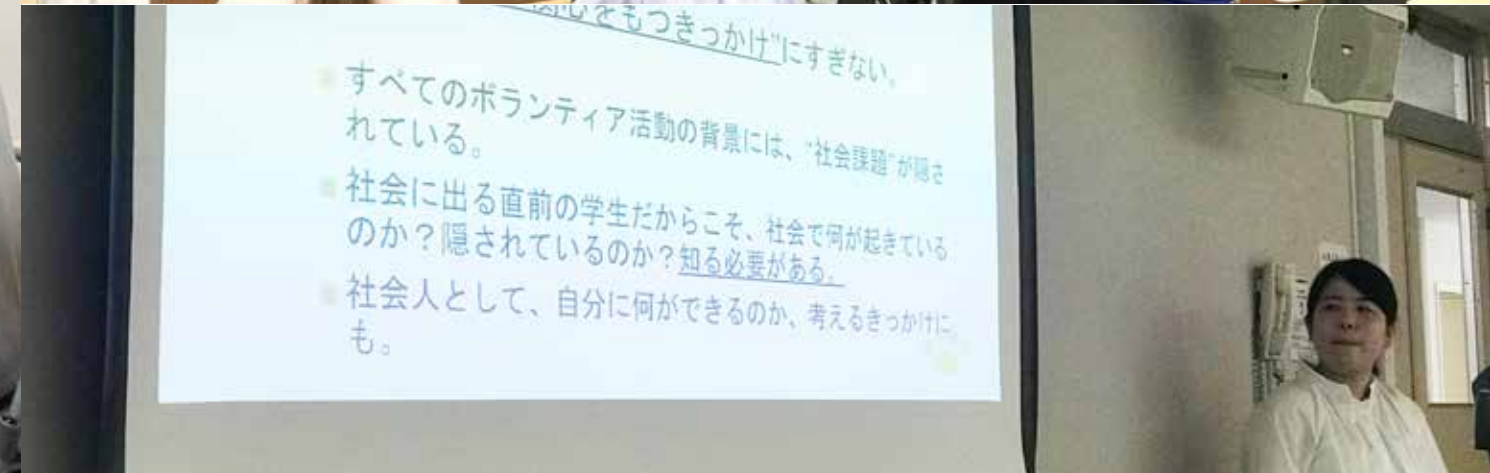
チームながぐつプロジェクト 「福島」

5月2日 福島県いわき市のオリーブ畑で、10名の学生たちが、オリーブプロジェクトの方に指導を受けながら、剪定枝をシートに集めて引っ張って運んだり、一輪車で運んでいた。学生たちが参加したのは、チームながぐつプロジェクト。2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに始まった。学生が自ら現地へ足を運び、そこで目にしたものや感じたことを受け、「自分にできることは何か」を考え、行動を起こしていくきっかけにして欲しいという想いの下、実施している。2018年度は、15回派遣を行い、延べ447名の学生が活動に携わった。地元の農家さんや地域で行われるイベントといった体を使う活動だけでなく、震災当時～現在に至るまでの福島の状況についてお話を伺い、知る・考えるプログラムである。全国各地の様々な大学から集まったメンバーで活動を行うため、毎日行う振り返りミーティングで、お互いの意見や価値観からも学ぶものは多い。



メディアの情報 < 自ら知る・考える





聖学院大学

活動への助走

ボランティア体験の言語化技法と実践

6月1日 埼玉県上尾市の聖学院大学で、20名ほどの学生が、新たに始まった寄付講座を受講していた。「ボランティアに参加して良い経験をしているはずなのだが、発信する段階になるとうまく伝えることが出来ておらず、もったいない。」こんな想いから講座はスタート。学生たちがこれまでに参加したボランティアを、ただ単に体験して終わりではなく、言語化できるようになり、成長につながるようにするのが講座の目標だ。言語化技法として、自分自身との対話であるボランティア体験を振り返る方法と、外向けの表現としての文章やプレゼンテーションの方法を、実践した。学生たちは、受講生同士で繰り返し、グループワークを行う中で、自分が感じたことを整理したり深く考えたりして、言語化技法について学んだ。





チームながくつプロジェクト 平成30年7月豪雨での活動

平成最悪の水害 → 学生の想いと力

8月8日

仙台から広島に向けて、18名の学生たちの乗った飛行機が飛び立った。センターが募集した平成30年7月豪雨被災地で活動するボランティア第1陣であった。第1陣は三原市にて被災家屋や側溝などの泥かき、清掃を行った。その後、9月23日の第11陣まで延べ236名、56大学の学生が、広島県竹原市・呉市、岡山県倉敷市で被災地復旧・復興に向けて汗を流した。

“平成最悪の水害”と呼ばれる程、広範に及ぶ被害をもたらした本災害に対する学生の興味・関心は高く、全国各地の学生がボランティア活動へ参加した。土砂災害が顕著だった広島県では、各自治体の災害ボランティアセンターを介し、被災家屋の泥かきを中心とした活動に携わった。家屋の浸水被害が顕著だった岡山県では、日本財団復興支援センターを介し、家屋再建に向けた作業を中心とした活動に携わった。



平成30年7月豪雨での 大学との連携

平成最悪の水害 → 学生の想いと力



愛媛大学

7月13日 愛媛県大洲市で36名の愛媛大学の学生たちが活動を行った。10月20日までGakuvoと連携の下、ボランティア派遣を39回行い、延べ597名の学生が被災地復旧・復興支援活動に携わった。愛媛大学では、日頃から大学周辺地域をフィールドとした授業やインターンシップ等の課外活動を行っていたため、地域と関係が深い教員・学生がおり、発災直後から迅速に支援活動を展開していった。活動は、救援物資の搬入/仕分け、被災家屋の泥かきや清掃、家財搬出、教育支援などであった。



岡山大学

7月17日 岡山大学は、学生たちから多くの希望が寄せられたことを受けて「岡山大学災害ボランティア支援センター」を立ち上げた。7月21日より8月20日まで、Gakuvoと連携の下、ボランティア派遣を4回行い、延べ63名の学生が被災地復旧・復興支援活動に携わった。活動は、被災家屋の泥かきや清掃、被災した中高生を招いたキャンパスツアーなどであった。



広島修道大学

7月21日 広島県安芸郡坂町で14名の広島修道大学の学生たちが活動を行った。9月22日までGakuvoと連携の下、ボランティア派遣を12回行い、延べ181名の学生が被災地復旧・復興支援活動に携わった。活動は、被災家屋の土砂かきや清掃、家財搬出、砂防壁の設置、茶話会の実施などであった。広島修道大学では、これまでのボランティア経験から被害状況や他のボランティア組織の動きを把握する事に力を注ぎ、活動を実施。また、広島県内のどこでボランティアが不足しているのかをGakuvoと共有し、連携体制も気付いていった。



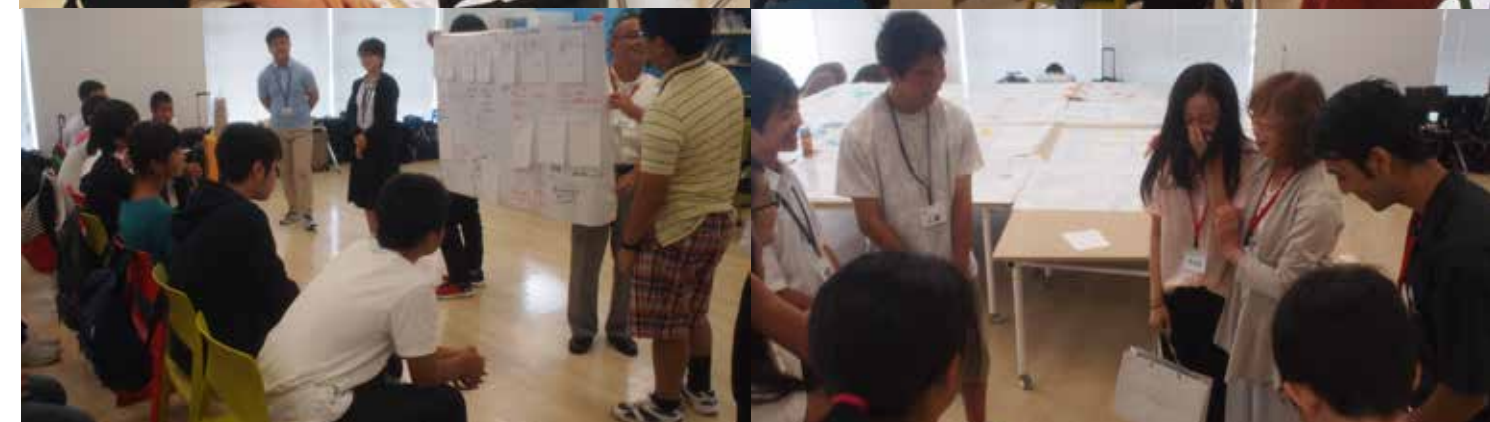
学生チューター派遣



世代を越えた 気づき

@プラチナ未来人財育成塾

8月9日 東京都世田谷区の東京都市大学で、26名の学生たちが、グループに分かれて、中学生がその日まで学んだことを発表するための準備を手伝っていた。プラチナ未来人財育成塾は、未来のリーダー育成を目的に全国から中学生85名が参加して、8月5日からの4泊5日で開催された。中学生は13グループに分かれ、その学びをサポートするために、学生チューターは2人1組となり、シニアチューターとともに、講義後の振り返りと未来の社会と自分を考えるワークを進めた。学生たちは、合意形成の手法や考え方、多世代とのコミュニケーションを学んだ。





Gakuvo Style Fund

ゆるやかに、がむしゃらに、いっしょに

8月 試験期間を終えた学生たちは、大学のある地域で、大学からは遠く離れた日本の国内で、アフリカや東南アジアで、様々なテーマのもと、活動を行っていた。Gakuvo Style Fundは2018年度で5回目を迎えた、学生ボランティアが単にだれかの役に立つだけでなく、活動を通して成長し、社会へはばたく人材を育成するために活動を支援するファンドである。7月末のプレゼン審査会を経て、採択された27団体は夏休みだけではなく、大学の開講期間や春休みも活発に活動していった。





福山市立大学

祭りのうねりに身を置く

多文化共生の民族まつり 体験実習

11月2日 京都市下京区の元小学校で、福山市立大学都市経営学部山口ゼミの8名が、翌日に控えた祭りのためにテントの設営を行っていた。翌日開催された在日朝鮮人の民族文化を中心とした多文化共生の祭り「東九条マダン」。共生社会論を専門とするゼミの学生たちは、祭りに参加するという「体験」を得ることにより、異質な他者との共生の実践的素養を身に付けることを目的に準備と当日スタッフとして祭りを支え、学んでいった。





熊本学園大学

“次”への備え

ボランティア・ スキルアップセミナー

12月3日 熊本市の熊本学園大学で学生たちは、ボールを使って板からくぎを抜く作業を体験していた。多くの学生を被災地へ派遣している熊本学園大学では、いずれまた起きるであろう災害に備え、即戦力となる学生ボランティアを育てるために、Gakuvoと連携し、スキルアップセミナー「やってみよう、災害ボランティア～知っておくといいマナー～」を開催した。震災がつなぐ全国ネットワーク事務局の松山文紀氏を講師に迎え、災害が発生してからボランティア活動が始まるまでの流れや、ボランティアへ参加するために必要な準備、また災害現場でよく使用される器具を使った作業体験など、実践も交えながら災害ボランティアの基礎を教えていただいた。





学生委員会

Gakuvoは学生に何ができる？

12月23日 東京都の国立オリンピック記念青少年総合センター今年度3回目の学生委員会では、Gakuvoへどのような提案をすることが良いのか、話し合っていた。個々人の活動の悩みや課題についても共有して、2日間意見交換を交わした。学生委員会はGakuvo理事会の諮問機関として、学生目線で事業へ提案するために設置されており、4期目。委員は、インターン、大学ボランティアセンター学生スタッフかつ地方大学在籍者、留学生、Gakuvoのプログラム参加者、ボランティアに精通している者の6名で構成されている。学生委員はGakuvoへの提案をまとめるとともに、委員会での議論やGakuvoの他事業に関わる学生との交流の中で、学びも深めていった。





ボランティア・シンポジウム

振り返る 深める

2月11日

東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで51名の学生たちが、自分の経験したボランティアについて発表を行っていた。ボランティア・シンポジウムは、東北から九州まで計27校の学生が参加して2日間に渡って開催した。Gakuvo連携大学の学生やその他の学生が、大学の地域性という枠や専門領域を超えて、主体的に学び・考え・行動する力を身に付けるために開催。他の参加者に自身の活動を語り、お互いの悩みを共有するグループワークを中心として、西川正氏(ハンズオン! 埼玉)による講座「『お客様』をつくらない『あったかい』場所の作り方」も実施。参加した学生たちは、初めて触れるテーマの活動にも同じ課題があることや、仲間といっしょに考えていくことの重要性を学んだ。





東北大学

学生だから学生に伝えられること

東日本大震災の経験を 世界と未来につなぐプロジェクト



2月18日 宮城県石巻市大川小学校、熊本や広島などから集まった学生を前に、東北大学の学生がメガホンを握っていた。多大学合同ツアーとして、災害時・災害後の学生ボランティアに何ができるか考えあい、阪神・淡路大震災後の学生ボランティア活動の経験の継承についても考えていく内容だ。このプロジェクトは5月の学内研修から始まり、ボランティアリーダーと被災地アンバサダーの育成を目的として学内外での研修を行ってきた。学生たちは、現在の自分たちにとってどんな事をどんな人から聞くのが良いのか、どこに行ってどんなプログラムを作るのが良いのかを考えて1年間活動していった。



インターン紹介

毎年、首都圏の様々な大学から学生が集まり、4月から翌3月までGakuvoの事業運営のサポートや独自の企画をつくりあげ、成長をしている。2018年度は8名がインターンとして活動した。

Q. インターンを経験してどんな自分になったか



チームで何かをすることの難しさと素晴らしさを実感しました。ミーティングは単なる合意をとるための形式的なものではなく、参加者一人一人の考えを聞き、議論し、一つの形にしていけるための大切な過程であるという、当たり前のようにも思えることを認識しました。



1年前の自分と比べ「私はこう思う」と意見を言えるようになったと思います。それに対するインターン達の見解や、Gakuvoで出会った方々の様々な思いや考え方に気付かされた事が沢山あり、刺激になりました。Gakuvoで得た事を通じ、今後も勉強していきます。



この一年、様々な経験をする中で、自分自身と向き合う機会が多くありました。思いを行動に移すことで自分自身が見え、実行する事と振り返る事の大切さを実感しました。今年度はこの一年で生まれた沢山の繋がりも大切にしながら、自分の弱点を克服していきます。



Gakuvoのインターンでは、普通の大学生活を送っているだけでは決して経験できないようなことを体験することができました。1つ1つのことが初めてで自分の成長にも繋がり、色々な人の考え方にも触れることができました。関わった全ての人に感謝です。



1年間の活動を通じて、「あたりまえ」って何？と、疑問を抱く自分に数多く出会いました。それは、Gakuvoの活動を通じていろんな人との出会いや経験ができたからだと思います。そうした経験も踏まえ、今後のアクションにつなげていきたいです。



アイデアを具体的な行動レベルまで落とし込む思考が、昨年度インターンより身に付いたと思います。目的目標を決め、逆算して考え、役割分担をし、共有することなど、この2年間Gakuvoで学んだことを今後も活かしたいです。



Gakuvoインターンを通じ、様々な価値観の衝突の先にあるものの価値を見つけることができました。また、そうして自分に新しい見方を与えてくれた人により感謝するようになったと感じます。この一年で得られた気づきと触れた想いを、次へと繋げていきたいです。



この1年は私にとって初めてのことでただけでした。仲間と作り上げていく楽しさ、難しさ、アクションすることの大切さ。何より、踏み出す勇気を身に着けたと思います。Gakuvoで学んだことを胸に、今後の活動に活かしていきたいです。



1歩踏み出す 周りに広める

インターン自主企画
ふくしま、なにいろ？



新しいふくしまの色、みつけよう！



●取材先

株式会社ヘラルボニー

代表取締役社長 松田 崇弥さん
PRプランナー・広報 佐々木 めばえさん

CHART project® 主宰 ひとしずく株式会社

こくぼ ひろしさん

被爆体験伝承者・ヒロシマピースボランティア

榎原 泰一さん

株式会社ファーストリテイリング

サステナビリティ部
ビジネス・社会課題解決連動チーム 松木 志

1月15日 GakuvoのWEBに新しいページが生まれた。「社会の明日を考える。学生のためのメディア」というコンセプトを基に、社会問題やその解決に取り組む人物を取り上げたwebメディア、それがacare（アクア）である。コンセプト決めや取材、記事執筆に至るまでをインターンが全て担い、学生目線から社会問題やその解決に向けたアクションの提案を発信した。

3月6日 東京都台東区、30名ほどの学生が、福島に関する様々なクイズに頭をひねっていた。東日本大震災から8年。「未だに『福島＝震災』というイメージを多くの学生が持っている。もっと福島の魅力を知って欲しい！現地へ行ってみたい欲しい！」という想いから、インターンが企画・実施したイベントであった。その他にも、幻のフルーツ・フェイジョア栽培に取り組む農家の方を招いたトークセッション、また福島の魅力発信に関するワークショップを実施した。参加者からは、「福島の様々な面を知ることができた」「福島に行ってみよう」という声が聞かれた。

2018年度 Gakuvo 年表

	セミナー・シンポジウム事業／インターン事業ほか	学生ボランティア派遣事業	大学等連携事業 ※50音順
4月	・ インターンキックオフミーティング実施(東京都) ・ インターン合宿実施(東京都)		・ 埼玉工業大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・ 聖学院大学「ボランティア体験の言語化技法と実践」(～7月／15回／埼玉県) ・ 聖心女子大学「ボランティア体験の振り返り」(～7月/15回/東京都) ・ 聖心女子大学「グローバル共生研究Ⅶ～地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト～」(通年/東京都) ・ 大学コンソーシアムひょうご神戸「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」学生スタッフ研修会(兵庫県) ・ 千葉大学「持続的地域貢献活動実習」実習(～2月／7回／千葉県) ・ 東北福祉大学「まちづくり論」(～7月／15回／宮城県) ・ 立教大学「ボランティア論」(～7月／15回／東京都)
5月	・ 第4回Gakuvo Style Fund活動報告会開催(東京都) ・ 監事監査	・ チーム「ながぐつプロジェクト」第179陣派遣(福島県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第180陣派遣(福島県)	・ 公立鳥取環境大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・ 大学コンソーシアムひょうご神戸「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」研修(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」学内研修(宮城県) ・ 東北福祉大学「まちづくり論」実習(宮城県) ・ 鳥取大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結
6月	・ 第13回理事会 ・ 第7回評議員会	・ 「ブラチナ未来人財育成塾@二子玉川」学生チューター第1回研修(東京都) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第181陣派遣(福島県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第182陣派遣(福島県)	・ 聖心女子大学「USHひとづくり・まちづくりボランティアin南相馬」(福島県) ・ 大学コンソーシアムひょうご神戸「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」丹波研修(兵庫県) ・ 中央大学「チームくまもと」活動(熊本県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」被災地アンバサダー学外研修(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」ボランティアリーダー・被災地アンバサダー合同学外研修(宮城県) ・ 東北福祉大学「まちづくり論」実習(宮城県) ・ 早稲田大学「米式蹴球部第11回ボランティア活動」(福島県)
7月	・ 第14回理事会 ・ 第1回学生委員会 ・ 第5回Gakuvo Style Fundプレゼン審査会開催(東京都)	・ 「ブラチナ未来人財育成塾@二子玉川」学生チューター第2回研修(東京都)	・ 愛媛大学「平成30年7月豪雨に係る災害復旧ボランティア(支援) 活動に関する覚書」締結 ・ 愛媛大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(17回/愛媛県) ・ 岡山大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・ 岡山大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(2回/岡山県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」学内研修(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」被災地アンバサダーによる留学生被災地ツアーin南三陸(宮城県) ・ 広島修道大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(広島県) ・ 明治大学「アメリカンフットボール部第6回ボランティア活動」(福島県)
8月		・ 「ブラチナ未来人財育成塾@二子玉川」への学生チューター派遣(東京都) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第1陣(広島県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第2陣(岡山県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第3陣(岡山県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第183陣派遣(福島県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第4陣(広島県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第5陣(岡山県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第6陣(広島県)	・ 追手門学院大学「普代村・村づくり支援プロジェクト」(岩手県) ・ 岡山大学「平成30年7月豪雨ボランティア」(2回/岡山県) ・ 愛媛大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(16回/愛媛県) ・ 聖心女子大学「USHひとづくり・まちづくりボランティアin南相馬」(福島県) ・ 聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」(岩手県) ・ 摂南大学「ボランティア活動」(岩手県、和歌山県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「学習支援活動」(宮城県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(岩手県) ・ 津田塾大学学外学修センター「ブリッジ・ザ・ギャップ ボランティア創発プロジェクト」(東京都、福島県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」被災地アンバサダー学外研修事前調査(福島県) ・ 広島修道大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(8回/広島県) ・ 法政大学ボランティアセンター「熊本被災地ボランティア」(熊本県) ・ 立教大学「RSL-プロジェクト・プランニング」実習(インドネシア共和国)
9月	・ インターン合宿第二弾実施 (福島県)	・ 平成30年7月豪雨ボランティア第7陣(広島県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第184陣派遣(福島県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第8陣(岡山県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第9陣(広島県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第185陣派遣(福島県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第10陣(広島県) ・ 平成30年7月豪雨ボランティア第11陣(岡山県)	・ 愛媛大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(4回/愛媛県) ・ 大正大学ツシマヤマネコ交通事故対策活動(対馬) ・ 聖心女子大学「SHOC project スタディツアー」(福島県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(岩手県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」ボランティアリーダー学外研修(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」ボランティアリーダー学内研修(宮城県) ・ 広島修道大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(3回/広島県)
10月	・ 第2回学生会委員会	・ チーム「ながぐつプロジェクト」第186陣派遣(福島県)	・ 愛媛大学「平成30年7月豪雨ボランティア活動」(2回/愛媛県) ・ 成蹊大学「東北と日本の未来プロジェクト」第1回目ツアー(福島県) ・ 中央大学「現代社会分析II」実習(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」ボランティアリーダー・アンバサダー合同学内研修(宮城県)
11月		・ チーム「ながぐつプロジェクト」第187陣派遣(福島県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第188陣派遣(福島県)	・ 愛知淑徳大学「にじいろ☆キャンプ」(岐阜県) ・ 京都産業大学「平成 30 年7月豪雨災害ボランティア in 岡山」活動(岡山県) ・ 成蹊大学「東北と日本の未来プロジェクト」第2回目ツアー(福島県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」被災地アンバサダーによる留学生被災地ツアーin福島(福島県)
12月	・ 災害ボランティア養成セミナー「災害ボランティアとキャリア形成」@二松学舎大学 ・ 第3回学生会委員会	・ チーム「ながぐつプロジェクト」第189陣派遣(福島県)	・ 神田外語大学「ボランティア入門講座」(千葉県) ・ 熊本学園大学「ボランティア・スキルアップセミナー」(熊本県) ・ 聖心女子大学「USHひとづくり・まちづくりボランティアin南相馬」(福島県) ・ 中央大学「チームくまもと」活動(熊本県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「学習支援活動」(宮城県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(岩手県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(2回／宮城県)
1月	・ webメディア「acare(ｱｶｱ)」公開	・ チーム「ながぐつプロジェクト」第190陣派遣(福島県)	・ 岩手大学「三陸の研究」における実習(岩手県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」学内研修(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」被災地アンバサダー学外研修in南三陸(宮城県) ・ 中央大学「現代社会分析II」実習(宮城県)
2月	・ ボランティア・シンポジウム開催(東京都)	・ チーム「ながぐつプロジェクト」第191陣派遣(福島県)	・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(岩手県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティ支援活動」(宮城県) ・ 東北大学「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」ボランティアリーダー研修 多大学合同ツアー(宮城県) ・ 法政大学ボランティアセンター「熊本被災地ボランティア」(熊本県) ・ 早稲田大学「米式蹴球部第12回ボランティア活動」(福島県)
3月	・ 第15回理事会 ・ インターン自主企画「ふくしま、なににいる？」実施(東京都) ・ インターン修了式(東京都)	・ チーム「ながぐつプロジェクト」第192陣派遣(福島県) ・ チーム「ながぐつプロジェクト」第193陣派遣(福島県)	・ 岩手大学「臨床心理プログラム」における実習(岩手県) ・ 追手門学院大学「普代村・村づくり支援プロジェクト」(岩手県) ・ 聖心女子大学「USHひとづくり・まちづくりボランティアin南相馬」(2回/福島県) ・ 中央大学「チームくまもと」活動(熊本県) ・ 中央大学東北関連プロジェクト「学習支援活動」(4回／宮城県) ・ 明治大学「アメリカンフットボール部第6回ボランティア活動」(福島県)

Gakuvo

REPORT 2018

目 次 - CONTENTS -

03	チームながぐつプロジェクト「福島」	21	ボランティア・シンポジウム
05	聖学院大学「ボランティア体験の言語化技法と実践」	23	東北大学 東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト
07	チームながぐつプロジェクト 平成 30 年 7 月豪雨での活動	25	インターン
09	平成 30 年 7 月豪雨での大学との連携	29	2018 年度 Gakuvo 年表
11	学生チューター派遣 @ プラチナ未来人財育成塾	31	目次
13	Gakuvo Style Fund	33	Gakuvo とは・・・？ /Gakuvo 理念
15	福山市立大学 多文化共生の民族まつり体験実習	34	組織図、代表あいさつ
17	熊本学園大学 ボランティア・スキルアップセミナー		
19	学生委員会		

Gakuvo

とは・・・？

日本財団学生ボランティアセンター（通称 Gakuvo）は、全国規模で学生のボランティア活動を支援する希少な団体です。

様々な社会課題が露呈してきている昨今、市民活動の必要性は日に日に高まってきています。これからの社会を担っていく若者が、学生のうちからボランティア活動に取り組むことで、社会課題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、課題解決のために行動する人材を育成していきます。

Gakuvo 理念

- 学生のボランティア活動を支援します。
- 学生ボランティアのスキルアップを支援します。
- 自分の携わったボランティア体験を、広く社会に伝えていく力の育成を目指します。
- ボランティア活動をととして、次世代を担う人材を育成します。
- 20年後の社会を見据えた活動を展開し、時代の「一歩先」を目指します。

代表挨拶

Gakuvo2018annualreport 結びにかえて

ご覧いただきましたように、当センターは、災害復旧支援や内外におけるコミュニティ支援など、様々な学生ボランティア活動への多面的関与と支援に注力しております。

次代を担う学生が、社会への関与と貢献の意味について体験を通して考え、公益・共同の心を醸成することに少しでも手を貸したいと、私たちは考えています。

学生自身にとってはもちろんのこと、高齢化と人口減少が必至である日本の近未来のためにも、その重要性は言うまでもないでしょう。

本年度の成果を踏まえ、当センターは今後も引き続き学生ボランティア活動の発展に注力してまいりますので、引き続きご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター
代表理事（会長）小宮山 宏

組織図

